



新本社屋のご紹介

An eXcellent New Building



Christian Saalbach, ハードウェア開発 :

「新しい社屋のおかげで、コミュニケーションが非常に良くなりました。コミュニケーションの経路が短くなれば、それだけ早く重要な情報に接することができます。より密接に開発プロセスに携わることができます」



Britta Dorn, 人事 :

「特に人事部では、長時間のミーティングではなく、手短な話し合いで済むことがあります。新しい社屋に移ってから、電話や電子メールを通じてではなく、直接本人と打ち合わせができるようになりました。手間をかけずに済みます」



Michael Strugholz, ダイレクトセールス :

「Xビルに引っ越して嬉しかったのは、製品管理や製品開発部門の人と知り合える機会が増えたことです。新しい社屋のデザインのおかげで、廊下やエレベータで会ったり、昼食を一緒にとるなど、すぐに親しくなることができます」



2010年の初め、dSPACEは、Technologieparkにあった社屋から、同じくパーダーボルンに建設したX形の新しい本社屋に、5,650個の家具と12,000個のダンボールとともに引っ越しました。Futuristic、spacious、communicative（斬新で快適な空間とコミュニケーション環境）—この3つのコンセプトが新しい社屋を完璧に表現しています。dSPACEのオフィスがパーダーボルン市の3か所、10棟の建物に分散していた時代は終わりました。全従業員が1つのオフィスに勤務するようになりました。

H + X = dSPACE HQ

このdSPACEの社屋は、敷地面積33,000 m²、鉄道の中央駅からわずか数分のパーダーボルンの中心地にあり、H形の建物とX形の新しい建物で構成されています。エンジニアリング、ロジスティクス、電子機器製造、購買、テクニカルセールスの各部門は、2006年に床面積5,400 m²のH棟に引っ越して来ました。新しい本社屋のX棟の建設は2008年冬に着工し、急ピッチで作業が進められ、2010年1月に完成しました。会社の経営部門に加え、管理、販売、マーケティングコミュニケーション、製品管理、開発の各部門が新しいオフィスに統合しました。

モダンで豊かな採光性

すべての社員がすぐ近くで働いています。電子メールを書いたり電話をかけるよりも、お互いに対面して話し合うことができます。それに越したことはありません。会議室が各階の各ウイングに設けられているため、いつでも会議を開くことができます。透明性とオープン性がdSPACEアー

キテクチャの基本概念です。どの部屋も外に面する窓は透明に、廊下側の窓は不透明になっています。この配光が自然で快適な作業環境を生み出し、階段の吹き抜けとガラス張りのエレベータを配置した明るく広い中央ロビーは、この建物の新しさと美しさを強調しています。

省エネルギー

dSPACEは、エネルギー効率における新たな標準を確立しつつあります。適切な温度の水を配管を通じてすべての天井に常時供給する、自然な空調システムが採用されています。この機能はコンクリートコア活性化と呼ばれ、冬には暖房システムを支援し、夏には室温を冷却します。

従業員および訪問客の快適性

dSPACEの社屋は、530台を収容できる6層の新しい立体駐車場も備えています。800人の従業員と訪問客を収容できる、床面積1,600 m²の無支柱自立型の食堂が設けられ、大きなイベントの会場としても使用することができます。■